

## 令和5年度第2回精華町男女共同参画審議会摘録

令和6年2月5日(月)

午後1時00分～

役場庁舎2階 201会議室

### 1. 開会

【事務局】令和5年度第2回精華町男女共同参画審議会を始める。

【町長】<あいさつ>(公務のため退席)

【事務局】<資料確認>

### 2. 審議会の設置

【事務局】<審議会の設置、会議の公開、委嘱状机上配布、委員任期について説明>

(各委員自己紹介)

(事務局職員紹介)

### 3. 会長・副会長の選出

【事務局】会長・副会長の選出は、委員の互選となっている。委員の皆様よりご推薦等ご意見をいただきたい。なければ、事務局からの提案でよろしいか。それでは、男女共同参画審議会発足当時より会長をお勤めいただいている片上様に引き続きお願いしたいと考えている。よろしいか。

(承認)

会長に片上智嗣様を選任

副会長の選出に、会長より吉井様を推薦される。

(承認)

副会長に吉井美奈子様を選任

【片上会長】<就任の挨拶>

### 4. 議事

【片上会長】それでは、これから会議を始める。本日の出席委員は13名中11名、2名より委任状をいただいている。精華町男女共同参画推進条例施行規則第10条第2項の規定により、出席委員が過半数を超えているため審議会が成立していることを報告する。

それでは次第に従い、これより議事に入る。「第3次精華町男女共同参画計画策定にむけて」<精華町男女共同参画に関する意識・実態調査結果(事業

所・町民) ><第3次男女共同参画計画骨子案について>説明願う。

【事務局】<精華町男女共同参画に関する意識・実態調査結果(事業所・町民)、第3次男女共同参画計画骨子案について説明>

【片上会長】ご意見、ご質問はあるか。文章が出てきたままで、どうなのかと言われると難しいかもしれないが忌憚のないご意見をお願いしたい。

【田尻委員】基本理念は、この「多様な生き方が選択できる男女共同参画のまち」が一つの提案なのか。

【事務局】第2次男女共同参画計画の基本理念から「男女共同参画」の文字を取り、「多様な生き方が選択できるまち」はどうかということで、提案している。

【田尻委員】「選択」は必要か。「多様な生き方ができるまち」でいいのではないか。「選択」は個人によって違って来る。必要ないと私は思うが。

【片上会長】言葉の捉え方で、人によって相当意見が違うと思う。

【田尻委員】もう「選択している」人達が多いので、そういう言葉は不要ではないか。

【富田委員】入れなくても良いのではないか。

【片上会長】事務局どうか。抜いた時に何か問題はあるのか。

【田尻委員】逆に言えば、何故「選択」が必要なのか聞いてみたい。

【事務局】単純に第2次計画が「多様な生き方が選択できる男女共同参画のまち」だったので、そこから「男女共同参画」を取り除いた。

【田尻委員】これを入れると、反対に誤解を招く可能性がある。私は不要だと思う。

【片上会長】これはここで決められる話なのか。

【事務局】決めることができる。そこを参考に、今後行政内部の決裁がある。

【片上会長】あとは事務局でどう考えるか、選択願いたい。

【富田委員】一点質問したい。報告書のほうで、「平等でない」という意見が前回から増えた理由や年代等について、何か解析しているのか。

【事務局】解析中である。これ以外に直近で総合計画のアンケートも行ったが、それも同様に低下しており、以前と比較すると平等感が薄くなっている傾向があった。京都府も同様だった。国のアンケートもみて分析しているところである。他の都道府県も探っていこうと考えているが、総合計画等でも同様の傾向があったため、こちらも危惧しているところではある。

【富田委員】私は研究機関に所属している。人事は基本的に公募だが、公募に「女性に限る」「女性が優遇される」等のコメントが入るものが増えている。意識的に平等感が改善されていないからそういう公募が出るのかもしれないが、雇用者側はそれを意識している。何故それが低下しているのか、理由がわからなかった。

【吉井副会長】私の職場も同様になっているが、時間がかかる。まだ男性が多いので女性の枠を広げましようとなるが、じゃあ女性がトップになったからといってすぐ

に結果が出るわけではない。今は少しずつ政策に関われる女性が増えているところで、ここから何年もかかりつつ平等感が上がっていく過渡期ではないか。女性自身も、決める側に立たないと自分達の声が届かないと気づき始めている。今までは当たり前でそんなものだ和我慢していたことが、声をあげても良い社会になりつつあるので、意識が変わってきたところもあると思う。数年経つと実際にシステムの活用上も平等になり、女性・男性自身もこれが平等だと理解していくのではないか。とても大切な視点だと思った。

【田尻委員】ある意味、政府が率先して女性の社会進出を企業側に要求している。そういう意図を非常に感じており、役職・管理職の比率を上げるように指導がある。逆に男性側から何故ここに性を扱うのかと不満が出てくることは当然だと思う。ここは本来であれば、能力主義でみていく必要がある。あえて企業側に要求しているのが事実だと感じている。

【吉井副会長】男女関係なく個人の能力で上がったなら一番良いとよく聞かすが、そもそも女性が土俵に立つことが非常に難しい。何故かというと、男性のように働かなくてはいけない。男性に合わせなくてはいけない、女性は努力するべきという前提があり、そこにハードルがまずある。土俵に立った上で能力を比較されるので、そこは不平等だと思っている。やはりまだまだ社会は難しい。家庭内でも男女平等といって夫婦できっちり平等に家事をしている家庭がどれだけあるかという、難しい。でも、男性のように夜遅くまで働きなさいと言われると、女性から引いてしまうところもある。だから、優先的に女性を枠としてあげて、男性も働きやすい職場や社会を作った上で平等になると、能力が図れるのではないか。まだまだ社会がついていない。ここを自分で乗り越えてこい、能力だと言われてしまうと、厳しい社会状況がある。研究者には男性が多いが、専業主婦の奥様がいらっしゃる方が多い。女性の研究者に専業主夫の男性がついているわけではないので、そこで状況が違う。そういうところを考えていただくと、ハードルが少しずつ低くなり、本当に力のある女性が上がってこられると思う。土俵を整備することが、結局はがむしゃらに働いている方のためにもなると思う。

【田尻委員】年代によって受けた教育も全く違う。家庭人、地域人、町民、企業人としての男女の問題がある。この環境が統一されていないために、結局その場その場の対応をしている。そこも含めて、その問題を共有していくことを実感していかないと、なかなかこういう問題は前に進まないと感じている。特に中小企業、小規模事業者は能力優先になっていくのは当然で、そこも含めて多様性の大事さを意識付けする活動が今後重要だと思う。

【吉井副会長】おっしゃるとおり、規模が大きくなればゆとりがあるのでいろいろできるが、小さいとそこまでは大変だと思う。そこも含めて、企業に先に言うのは政

府のご都合だと思う。

【片上会長】一つの時代の流れみたいなものがある。元々、日本は家を中心である。個々の家を守るとなると、誰が守って誰が仕事をするのかとなる。これが基盤にあるだけに、なかなか難しい。それと、政党の中で年寄りが多いのが自民党である。そこが政権を持っている。ここで外国のように女性の首長が出てくると、大きく考え方が変わると思う。それがちょうど日本は過渡期にある。一人一人が意識を持つこと以外ないと思う。家の中でも同様である。

【田尻委員】ご存知のように少子高齢化で、男女を問うていく時代ではなくなっている。そうでないと、国・企業自体がもたないという意識をもっていくことが一番大事ではないか。

【藤田委員】文字面だけでなく実際にやっていくことが大事なので、文字についてはこれで良いと思った。ただ、基本理念については「多様な生き方ができるまち」とするとぼやっとするので、その前に「個人を尊重した多様な生き方ができるまち」とすると、理念としてわかりやすいのではないか。

【片上会長】検討項目として入れておいてほしい。

【藤田委員】「多様な生き方ができる」ことは普通のことはあるので、付け加えていただけたらと思った。

【片上会長】もともと計画の名称が「男女共同参画」ではあるが。

【北尾委員】DV防止基本計画で、「女性に対する」を「あらゆる暴力」に変更したことは良かったと思う。30～40%くらい女性からDVを受けている男性もいると聞く。女性のトイレにはDVの啓発があるが、男性のほうはどうか。

【事務局】DVとは書いていないが、男性向けの相談窓口の案内を置いている。

【北尾委員】テレビ番組でも男性が泣きながら訴えていることがある。平等に認識を持つことが必要だと思う。

【藤田委員】基本方針⑩の「住民活動で多様な人材が活躍できるよう支援する」の内容が「①女性の能力開発の機会充実」なのは、少しちぐはぐなように思う。「女性以外の方も」というところが盛り込めたらと思った。

【松延委員】最初の話に戻るが、今までは当たり前ではなかったと意識する女性が増えてきたために、平等感の数字が変わっていると思う。男女共同参画についてもぼやっとしている人が多い中、そのところは逆に意識が高まったから不満が増えたと思う。

【片上会長】また何かあれば、事務局に文書もしくはメール等をお願いしたい。

次に、＜令和6年度スケジュールについて＞説明願う。

【事務局】＜令和6年度スケジュールについて説明＞

【片上会長】何かあるか。

【藤田委員】今年は計画策定があるため会議が多いのか。

【片上会長】そうである。

【藤田委員】良ければ事前にメール等でいただけると有難い。

【片上会長】そのあたりは考慮願いたい。

【事務局】＜令和6年度スケジュールについて補足説明＞

## 5. 報告

【片上会長】それでは、次第5の報告事項「令和4年度男女共同参画推進事業実施報告について」＜精華町第2次男女共同参画令和4年度進捗状況調査結果＞＜精華町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画＞について説明願う。

【事務局】＜精華町第2次男女共同参画令和4年度進捗状況調査結果、精華町における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画について説明＞

【片上会長】ご意見等はあるか。

【吉井副会長】勤続年数で女性との差が増えている年がある。これは、結婚や出産の影響か。その理由はわかるのか。

【事務局】6～10年は結婚・出産と聞いているが、その上の段階の理由はこちらもわからない。

【吉井副会長】例えば、男性は課長・部長クラスに上がって給料も上がるが、同年代の女性はそのクラスに上がらないから給料も上がらない率が反映されているのかと思った。その理由を分析することによって、役場内でのこれからの男女共同参画がみえてくると思う。結婚・出産による辞職は個人の選択と捉えられがちだが、結局は制度や職場環境が整っていれば続けられる人もいる。

【片上会長】今の一般企業は、1～5年は男女の給料はほとんど同じだと思う。役場はそんなに差があるのか。

【事務局】職種によって異なる。例えば、保育士に女性が多いが、保育士の給料が安い。

【片上会長】一般職と同じではないのか。

【事務局】職種によって異なる。一般職は同じである。消防は高い。

【片上会長】職場によって違うのか。

【事務局】職種による。

【田尻委員】だから、各市町村の悩みは技術職が集まらないことである。そのあたりも含めて、今後の大きな課題だと思う。

【事務局】離職も多い。どこの市町村も同様である。

【田尻委員】そこも含めて、大きな改革が必要である。

【片上会長】企業でも半年～3年くらいで辞める方が多い。役場も同じだと思う。

【田尻委員】特に若い世代が受けた教育と現実社会のギャップが大きい。いわゆるZ世代だが、夢見て入ったが現実とは全然違うというのが事実だと思う。

- 【片上会長】怒らない、叱らないで家の中でも育ってきたのが、企業に入るとそんなことは言ってもらえない。
- 【橋本代理】資料6の目標値は、いつのものか。達成率50%とかあまり意味のない数字が並んでいる。
- 【事務局】第2次計画が10年計画で、実績値と累積値がある。
- 【吉井副会長】5年前に目標値をこれでいこうと一旦決めている。次に変えるとなると、令和6年度くらいに検討の上でとなる。
- 【橋本代理】5年に一度ということか。
- 【吉井副会長】そうである。コロナ等もあり状況も変化している。不自然に大きすぎると疑問に思うかもしれないが、できれば超えてほしい思いがある。
- 【橋本代理】企業は一年単位で目標設定をするので、見直しは必要ないのかと思った。
- 【片上会長】企業は年度計画なので、分母の取り方が違う。
- 【吉井副会長】一年ごとに報告はしてくれているので、そこで意見は出し合っている。
- 【事務局】次期計画では、指標は変えていけたらと思う。
- 【田尻委員】ただこれも、やったという実績だけなので、結果として成功しているかというところでもない。そこも含めて今後見直す必要があると思う。
- 【片上会長】企業と違って結果が営業に影響するというのが薄いだけに、難しいところがある。ただ、目標は目標なのできちんと見直しは必要だと思う。
- 【富田委員】先ほど職種による給料の違いの話があったが、職種によって100%を超える場合も当然ある。小学校の先生は女性の割合が増えている。
- 【吉井副会長】小学校の先生は、多分男女半々くらいだと思う。保育士の給料の低さ、消防士の高さがあり、この数字になっているのではないか。
- 【富田委員】いろいろな職種をみれば、100を超えることも当然ある。
- 【片上会長】学校は、職種が変わらない。役場は職種のバラエティが多い。一般企業でも営業職が多い、事務職が多い、技術職が多い等、いろいろある。技術職が多い会社ではこのようなことが起こるだろうし、事務職が多ければ女性の給料が高い可能性もある。役場はあまりにも職種が多く、つかみにくいところがある。
- 【徳田委員】やはり学校でも女性は教員としては多いが、管理職は少ないことは確かである。男女差ない仕事とはいうものの、女性は出産があるので休職し、そこで停滞してしまう。そして次の復帰となるが、リスクは出てくる。また、子育てや家庭の事情で一度退職する方も女性に多いように思われる。その中でも条件に合わせて働ける時間を考え仕事に就く方が増えている。ただ、やはり先生方の中にもいろいろな思いがある。また、年齢が上がると介護の問題が出てくる。その場合、求められるのは女性が多いことは確かであり、そのあたりのケアは難しい。制度が整いつつある一方で、やはりまだまだ男尊女卑のある発言

を聞く時がある。本当にこういうことは徐々にしか浸透していかないと感じる。だからこそ、このような会議で一言一つでも話し合うことは大事だと思う。最初の話の「選択」については、私は選択できることは受け皿があるという意味で温かい面があると受け取っていた。今後も議論を続けていければと思う。

【片上会長】だいたいご意見は出そろったと思う。今回出して頂いたご意見は事務局の方で検討してもらい、基本計画提案時にご説明いただきたい。その他ご意見や確認事項があれば、メール等で事務局までお願いしたい。これで本日の協議は終了する。

【事務局】これをもって第2回男女共同参画審議会を閉会する。

## 6. 閉会